

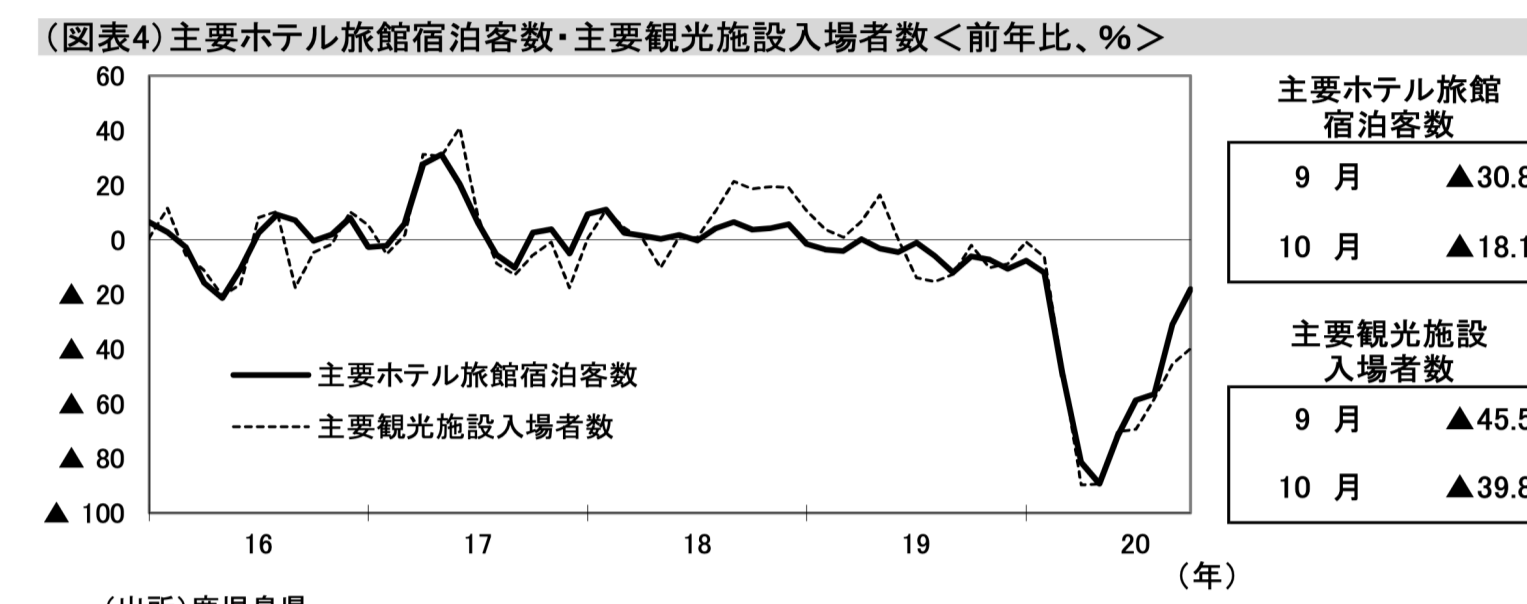
コロナ禍における新しい観光 -若者の観光ニーズから見た鹿児島の観光問題-

法文学部 人文学科 3年
松原祐真

1：鹿児島島の観光を取り巻く問題

・新型コロナウイルスの感染拡大によって県内の観光業には大きな打撃が…

↓鹿児島県金融経済概況（2020年12月時点）より。



観光客はコロナの影響で減少し、**4～5月はほぼ0人**でした。

今は県内からの観光客が少し来る程度です。

・増加傾向にこそあるものの、**例年と比べるとその数が少ない**ことがわかる。

奄美の里 堤さんに9月に行ったインタビューから（一部抜粋）→

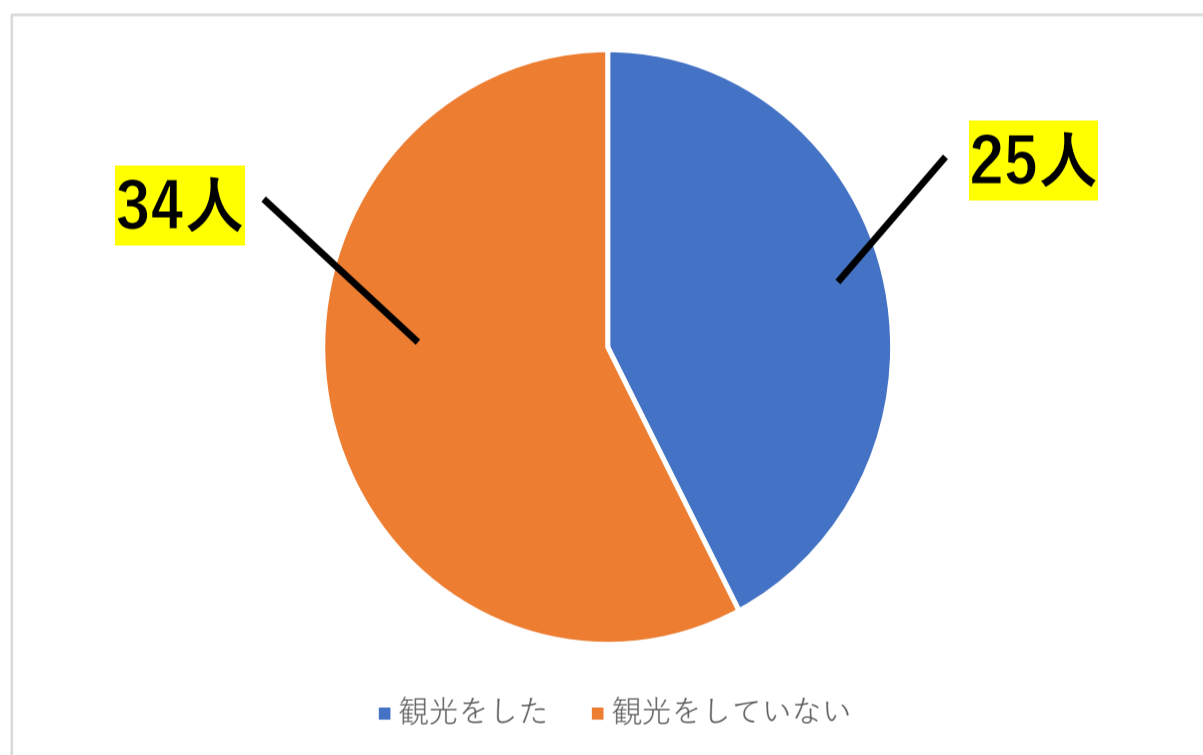
2：観光に関する調査と結果（抜粋）

- ・Googleフォームによるアンケートを実施（期間：2020年12月9日～12月31日）
- ・回答数 59件 ・回答者の9割以上は**10代から20代の若者**

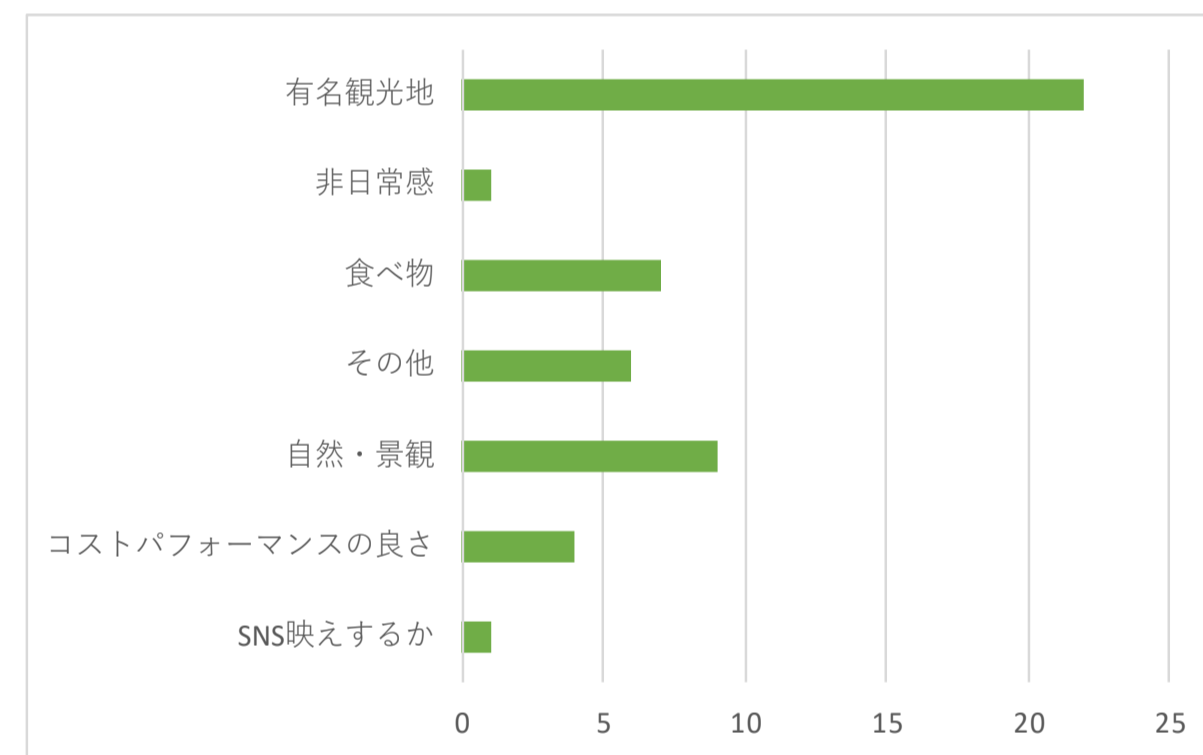
調査内容

- ①コロナ禍での観光
- ②観光に関する傾向
- ③鹿児島の観光

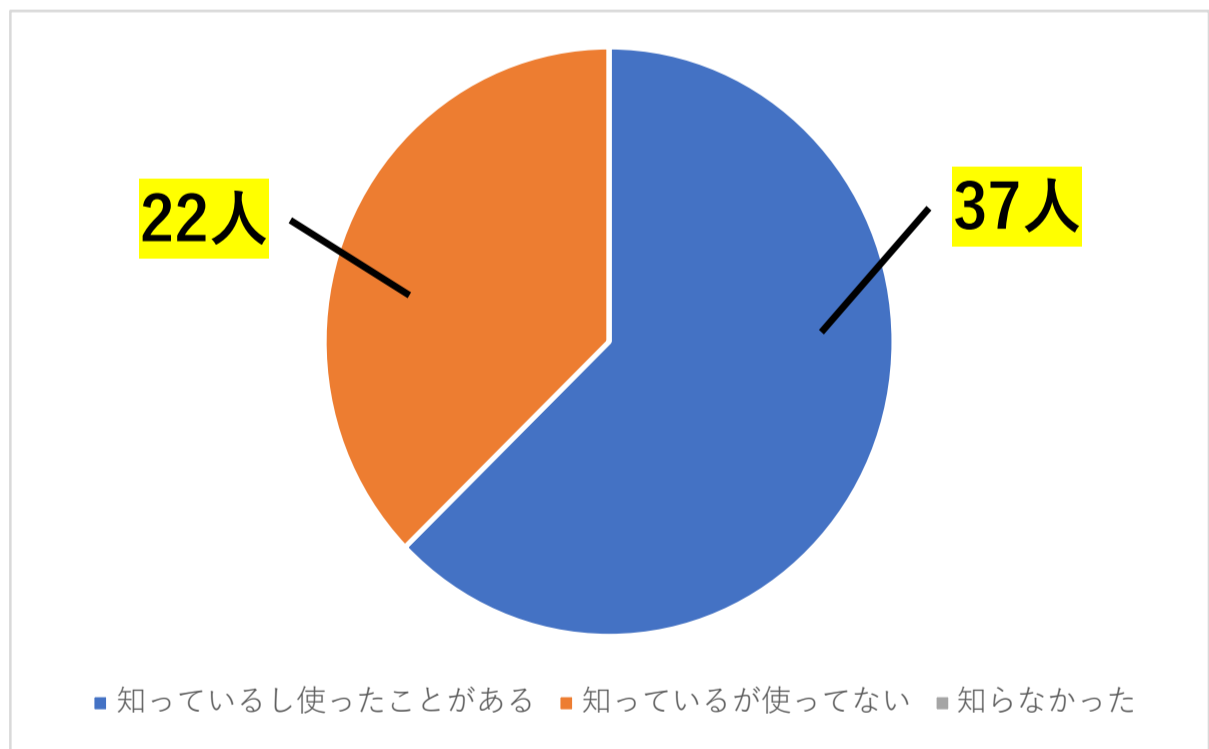
・コロナウイルス流行から今日まで観光を行いましたか



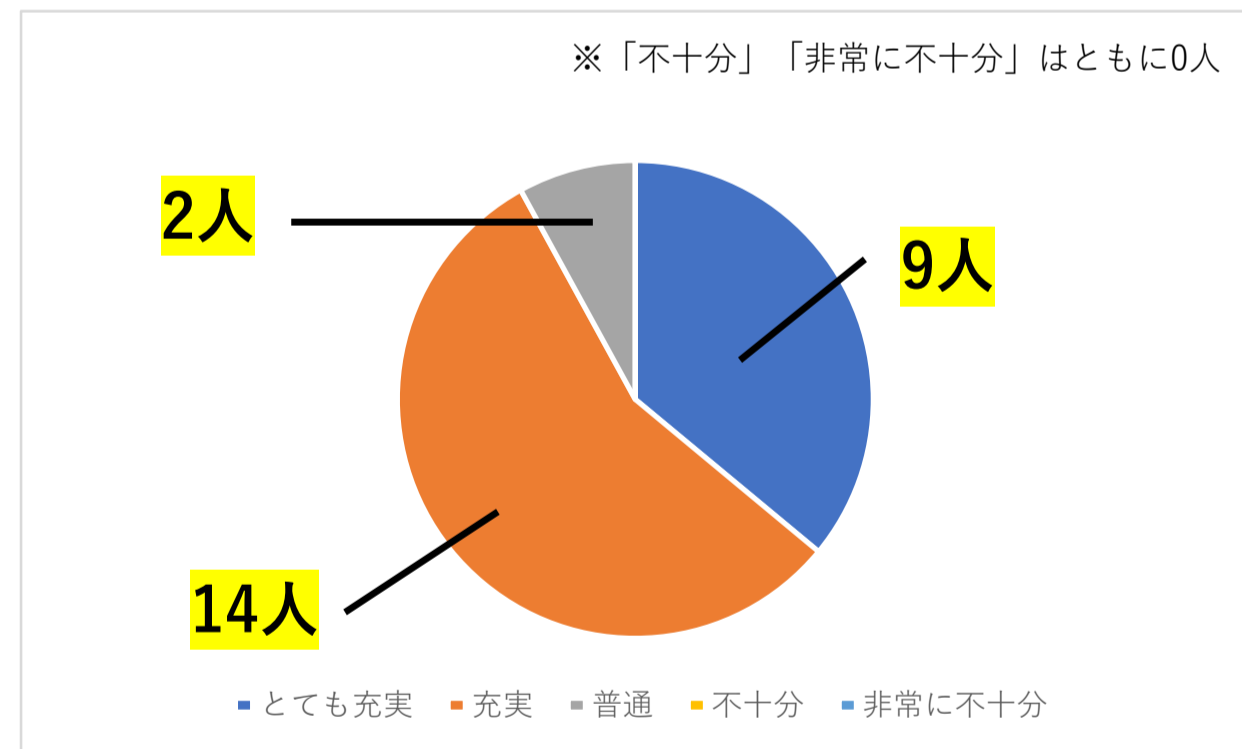
・観光をする際の決め手となるものはなんですか



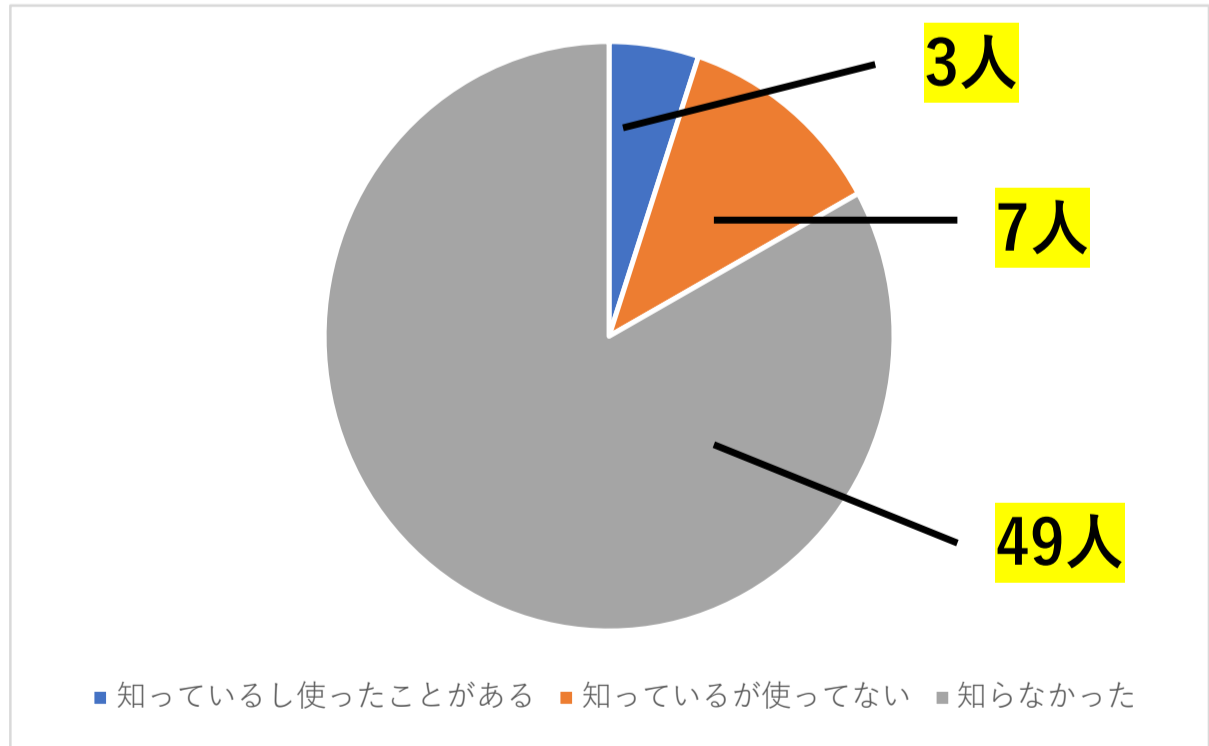
・Go to トラベルキャンペーンを知っていますか



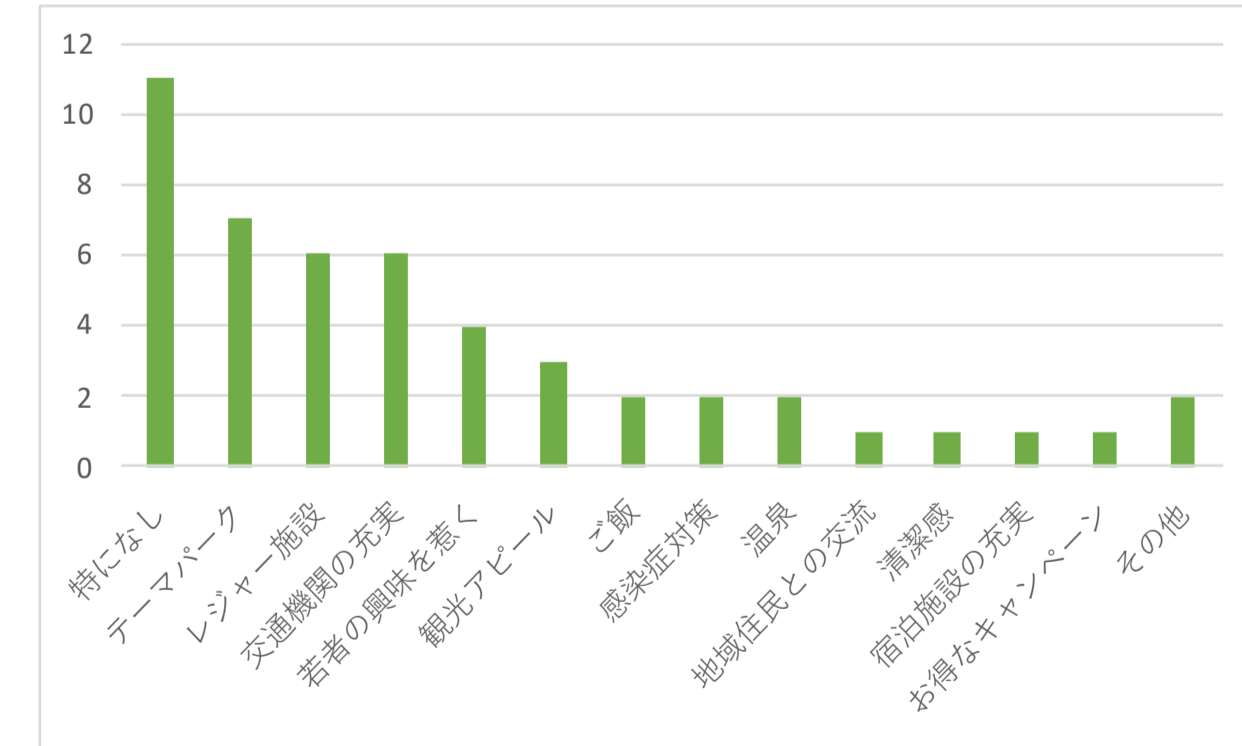
・観光地での感染症対策はどれほど充実していましたか



・ディスカバー鹿児島キャンペーンを知っていますか



・あなたが鹿児島の観光に求めるものはなんですか



3：調査結果から検討すべき課題

・鹿児島県における観光客の数は県内外の人を含めて増加傾向にあるが、コロナウイルス流行以前の数にはまだ回復しておらず、至急何らかの行動を起こす必要がある…

コロナ禍での観光として、どのような取り組みをするべきなのか

・アンケートの主な回答層は10代から20代の若者だった…

→若者によって観光業が活性化された例として、**聖地巡礼や撮り鉄**といったものが挙げられる。
⇒若者が観光業に与えてくれる力は非常に大きいのではないか？

→若者が観光に興味を持つことに加えて、鹿児島を目的地としてくれるためにできることはないか

若者が鹿児島の観光に興味を持ってくれるために何ができるのか

今の鹿児島の観光に必要なものは、**コロナ禍での取り組み + 若者が「行ってみたい」と思える取り組み**ではないか

4：考察

・コロナ禍の観光のあり方

・そもそも「コロナ禍の観光」とは？
コロナ禍の観光=感染症対策等を行なった上での観光
→**コロナ禍であってもできることを探すこと**であり、
コロナ禍ではできないことをしないことではない

・「コロナ禍でもできること」とは
→遠隔地への移動は感染症を広めやすい
⇒**近隣地域内**であれば感染拡大のリスクは低いのではないか

・移動を伴わない観光の形
→デジタルの活用
⇒AR・VRの活用→浸透まで時間がかかる
→地域の特産物の配布
→産業支援と地域活性の面では効果的
→情報発信の面で課題があるか
⇒**実行に移しやすく、伝わりやすくあるべき**

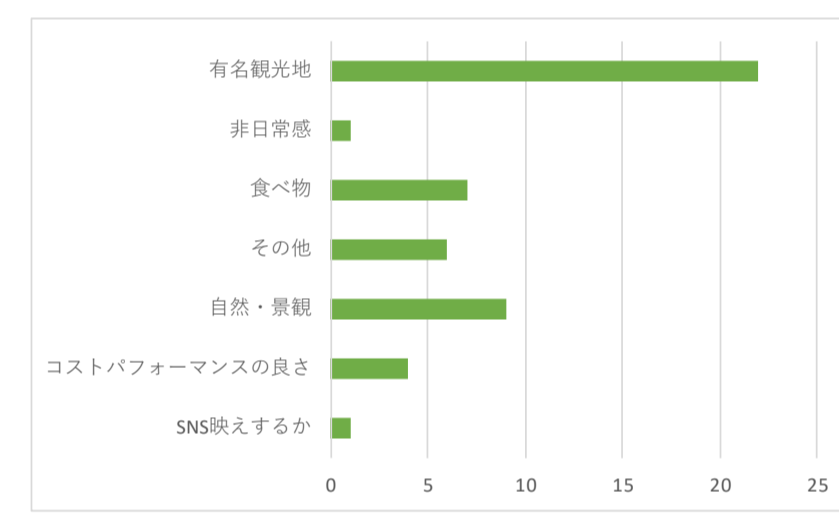
・コロナ禍でもコロナ禍でなくてもできる取り組みこそがコロナ禍の観光にあるべき姿である。
・近隣地域内での移動であれば、感染拡大のリスクを抑えた上で、観光に関する取り組みが可能ではないか。
・なるべく迅速に行うことができ、なおかつ多くの人に知ってもらえる取り組みである必要がある。

⇒ **人の移動を抑えつつも観光地に触れることができる取り組みはないだろうか**

・若者が観光に興味関心を持つには何が必要か

・鹿児島の観光に必要なものは「**特になし**」の意見
→興味がないor思いつかないのでは？
⇒若者が興味を持つ観光とは？

・観光地選びの決め手になるもの→観光地 自然景観 食べ物…？
→若者が**興味を持つ**形での提供が必要
・「興味を持つ」→「行ってみたい」「欲しい」と思うこと
・興味を持つことから「満足感」につながれば、情報発信を通じて、更なる観光の促進につながるはず。
→情報発信：SNSなどの投稿（写真や動画）とそれらの共有



・テーマパーク等が欲しいとの意見があった（2：調査と結果より）
→すぐには準備できない
→**今あるものを活用する**しかないのでは。

・若者が**情報発信しやすい内容**の取り組みであるべき（興味を惹く面白い楽しそう）
・テーマパークは難しい→**今あるもの**を利用していきかない（今ある鹿児島の観光資源の活用）

⇒ **今あるもので若者の興味を惹くためにはどのような取り組みをするべきか。**

5：提案とメリット・デメリット

→大勢の人の移動を抑えつつ、鹿児島に今あるもので若者の興味を惹く取り組みを行う

鹿児島スナップコンテスト（仮）

・使用するもの **スマートフォン**など撮影できるもの
・概要
写真を撮影してSNSで共有
基本的に「**いいね**」の数=ポイントで順位を決める。

・特徴
ただ写真を撮るのではなく、点数の集計には独自に定めた「**鹿児島ポイント**」が加算されるシステム。

「**鹿児島ポイント**」
例 桜島が映っている→+100点
鹿児島島の偉人の格好をしている→+300点
→条件が難しいものほど点数を高くする。
→思い思いの「鹿児島らしさ」を表現してもらおう。

・**範囲**
場所は問わない
※鹿児島らしさを表現できる写真であれば可
・**商品**
順位に応じて**鹿児島にちなんだ商品**を与える。



メリット

- ・鹿児島にある歴史・自然・文化などに幅広く触れることができる。
- ・単純な評価基準による参加しやすさと「鹿児島ポイント」の導入に伴う逆転要素の存在によるゲーム性の追加。
- ・地元の産物を商品とすることや地元を舞台としたイベントなので、地域に対する興味関心を高める理由になる。
- ・SNSによる情報発信は、県内外の枠に問われず、鹿児島の魅力を発信できる。
- ・鹿児島らしさを表現できる写真ならOKなので、一つの場所に人が集中するといった心配もないのでは。

デメリット

- ・多少なりとも人の移動を伴ってしまう。→感染症が広がってしまうのでは
- ・コロナ禍でなくてもできてしまう。→コロナ禍でも可能なものと考えられないか。
- ・ポイント稼ぎを目的とした写真を撮るようになってしまうのでは

感染症対策と観光の両立は非常に難しいが、0か1になるのではなく、両者の妥協点をうまく見つけることこそが重要である。
若者が情報発信をしたいと思えるような取り組みを行うことも大切である。